

らしくレポート ひる記者が行く

今回は、「広島修道大学商学部 川瀬正樹教授」に取材をしました。

被爆痕跡を巡りデジタル地図を作成することで記憶を伝承

レポーター ひる記者 津森正裕、高村秀樹

街なかの被爆の痕跡をたずね、地理情報システム(GIS)を活用してデジタル地図を作成するワークショップを運営している広島修道大学商学部川瀬正樹教授を訪ねた。専門分野は都市地理学、経済地理学など。

川瀬さんが支部長を務める「地理情報シ



▲川瀬教授

被爆した小学校の壁に残る被災者の家族を探す伝言をその場で見ることが大切です。」と川瀬さん。

(ソフトを活用しデジタル地図を作成するワークショップ(午後)

GISソフトを活用して、フィールドワークで撮影した写真を国土地理院の地図データや空中写真とともに取り込み、記録した内容を入力して地図を作成し、グループごとにプレゼンテーション。被爆者の体験を聞く参加者は、午前中に巡った場所の話でもあり真剣に耳を傾ける。



▲作成したデジタル地図



▲参加者へ配布される空中写真

原爆の記憶が乏しい世代にも被爆の痕跡を巡ることで記憶の伝承につながる。ワークショップの開催要領は、毎年夏前には「地理情報システム学会中国支部」のホームページで確認ができる。



▲街なかの痕跡を探索

「ひる記者」とは、市民自らが地域のまちづくり活動やイベントなどを取材し発信していく、広島の市民レポーターです。

▶ <https://www.city.hiroshima.lg.jp/soshiki/14/7197.html>

がらしくコラム Rashikku column

海外の視点から見た被爆80年

広島と長崎への原爆投下から今年で80年を迎えた。だが、私たちは「核なき世界」を未だ実現できていない。むしろ、核兵器は量的にも質的にも進化を続け、破壊力は広島型の数万倍に達するまでになっている。80年前の惨禍が、決して過去の出来事ではないことを、世界は痛感すべき時期に来ている。

広島への原爆投下により推定約14万人が犠牲となり、生き延びた人々も放射線や熱線などの後遺症で苦しみ続けている。しかし、忘れてはならないのは、原爆の犠牲者が日本人のみではなかったという事実である。多くの朝鮮半島出身者が、広島・長崎で被爆した。大韓赤十字社(韓国)の資料によると、今まで4406人が原爆被害者として認定され医療や様々な手当支援を受け、現在、生存原爆被害者は1605人、平均年齢は84.8歳とされている。韓国政府は2016年5月、「韓国人原子爆弾被害者支援のための特別法」を制定し、原爆被害者の実態調査及び医療支援、被害者審査など原爆被害者のために様々な活動を繰り広げている。しかし、被爆2世・3世の間では、パーキンソン病や様々な癌などの病患が報告され、病気に苦しんでいるが、それらと被爆との因果関係を科学的に立証することは難しく、実際の支援には限界がある。経済的理由から遺伝子検査を受けられないケースも多く、被爆の影が世代を超えて続いている。

一方で、韓国政府は原爆被害者に対する医療及び介護支援とともに葬祭費支援などをしており、民間レベルでは「韓國原爆被害者協会」を中心に医療支援及び補償や慰靈祭開催などの活動もしている。彼らは単に補償を求めるだけではなく、非核化と世界平和を訴える活動にも力を注いでいる。被爆の記憶を「訴え」から「行動」へと変えていく営みが、続けられているのだ。

だが、今私たちが直面しているもう一つの現実は、北朝鮮の核開発問題で



Profile

広島市立大学広島平和研究所 准教授
孫 賢鎮

神戸大学大学院法学研究科博士(公共関係法)。専門は国際法、北朝鮮問題。韓国統一部事務官(北朝鮮人権、拉致問題担当)、韓国法制研究院研究員を経て2014年4月より現職。広島で北朝鮮の核問題や人権問題(脱北者の支援など)に関する教育・研究を行い、毎年北朝鮮関連のセミナーや「広島日韓フォーラム」開催に関わるなど活動を行なっている。

ようこそ! 公民館へ ～安佐北区内公民館～

地域のみなさんの学習活動を応援する最も身近な施設「公民館」でまちづくりに関する活動をしているグループをご紹介します。

1 可部ガイドクラブ

可部公民館

「可部ガイドクラブ」は平成19年に可部公民館主催の「ガイドクラブ養成講座」終了後、参加者の有志で立ちあげ、可部の歴史と文化を広く市民に紹介しようと可部公民館を拠点に現在9人で活動しています。



毎月第2月曜日午後1時半～3時半の定期会では、奇数月の第3土曜日に開催するまちあるきのガイドコースや担当決め、ガイド先の学習をしています。各自でも町史や地図を熟読したり地域の長老に話を伺ったりするなど、スキルアップのためのアンテナを巡らせています。

実際のガイドでは簡潔明瞭に正しく伝えるため、拡大した写真やスケッチブックに太字で書いた説明文を掲げるなど工夫しています。ガイドの際に参加者からいただく質問は、良い勉強の機会となっています。

定例ガイドのほか、可部小学校の児童へのまちあるきガイド、可部夢街道まつりでのガイド、区外の団体からの依頼を受けてのガイドなど、活動の機会は多岐にわたっています。

川舟で広島城下と結ばれ、さらに出雲街道と石州街道の結節地であった可部は交通の要衝、宿場町として栄えた歴史の痕跡が残る魅力満載な地域です。私たちと一緒に可部のまちをガイドしてみませんか?



2 キャレット

真亀公民館

「キャレット」は、毎月2回(第2・4木曜日午後2時半～5時半)、真亀公民館で活動しているパソコン学習グループです。

会員は、現在14人です。パソコンの基本設定、メールの送受信、インターネットの楽しみ方、チャットGPTの活用などを、講師の先生に指導を受けながら学習しています。

公民館まつりでは、パソコンで制作した作品(パソコンアート、AIアート、紀行文など)を展示し、パソコンを活用することで広がる可能

性を発信しています。

日々の学習成果を生かして、夏休み期間に「こどもサマースクール」での指導や、パソコン初心者の相談に応じる「パソコンひろば」の開催、そして9月からは、これまで講師の先生が担当していた「パソコン講座」での指導を、公民館と連携しながら進めています。

パソコン学習を通して新しい知識を吸収し、学んだことを生かして地域の皆さんと交流する…仲間と一緒に楽しく活動しています。

【令和7年の主な活動】7/8 大阪・関西万博「カタール・ナショナルデー」式典参加(19人)、9/1・9/2 カタールエナジー総代表との交流(安佐公民館にて会員との懇談、飯室児童館でのこどもたちとの交流、高陽東高校での「世界事情」の講義)、カタール国こどもたちの絵画展示・カタール国紹介(7月:地元商業施設での絵画展示、10月:ペアセロベ2025及び安佐公民館ふれあいまつり、11月:国際フェスタ2025)

今後もカタール国こどもたちと日本のこどもたちの絵画交流や文化紹介を行い、広島市民の皆さんに絵画・文化交流の状況をご紹介してまいります。



3 おきらく子ども食堂

口田公民館

おきらく子ども食堂は「誰もが安心して集まる場所を作りたい」という思いから始まりました。毎月第2日曜日午前11時半～午後2時に活動しています(準備は午前8時半から)。こども、高齢者、障がいや病気のある方など、地域には様々な背景を持つ人々がいますが、それぞれが孤立せず自然に交わり、笑顔になれる場を目指しています。

最初は数人の参加者でしたが、回を重ねるごとに輪が広がり、今では多くの方々が集い、賑やかな時間を過ごしています。「また来たい」「誰かを連れてきたい」と思ってもらえることや、食事だけでなく人と人がつながる場所になっていることが何よりの喜びです。

定例ガイドのほか、可部小学校の児童へのまちあるきガイド、可部夢街道まつりでのガイド、区外の団体からの依頼を受けてのガイドなど、活動の機会は多岐にわたっています。

食材や資金、人材の確保には苦労もありますが、地元の方々の善意に支えられていて、こども食堂は誰かが誰かを思いやる気持ちで成り立っていることを実感しています。そして、無理なく、楽しく、自分らしく参加できることが長く続けられる秘訣だと感じています。

これからも笑顔とぬくもりがあふれる場所として、地域に根付いて歩んでいきたいと思います。



4 安佐公民館カタール会

安佐公民館

私たち「カタール会」は、平成6年10月に開催された第12回アジア競技大会を契機に、広島市が提唱した「一館一国運動」に基づき、安佐公民館がカタール国を担当したことから始まりました。平成8年2月29日～3月6日には、18人でカタール国を訪問しました。訪問時に安佐町のこどもたちの絵画を持参したことがきっかけとなり、カタール国の中小学校との絵画交流がスタートしました。

5 Cherish+

日浦公民館

元々は、こどもたちがダンスを学ぶグループで「Cherish」という名称でした。活動日の夕方の練習には、お母さんがこどもと一緒に来て練習を見守っていました。時が経つとともに、こどもが成長し、グループを卒業していく、練習に来るこどもたちが減ってグループ存続の危機が訪れたときに誕生したのが「Cherish+(チエリッシュプラス)」です。こどもを連れて来ていたお母さんたちが「よい先生がいるのにもったいないね」ということになり、令和6年6月に活動内容をお母さんたちのストレッチ体操に変更しました。そのため名前に「+」がついています。

若いお母さんが中心のグループで、毎週金曜日の午後7時～8時までの1時間、ストレッチ体操をしています。普段せわしくしている中で、この1時間は癒しです。また、同世代のお母さんたちとの会話も楽しいです。

昨今はやりのサウナではないですが、まさに心身ともに「整う」とのう」ひとときです。公民館には同世代がいないと思っておられる方、こんなグループもありますよ。一緒にいかがですか?



グループへのお問合せについては、各公民館へお願いします。

- | | |
|---------|--------------|
| ① 可部公民館 | 082-814-4031 |
| ② 真亀公民館 | 082-842-8223 |
| ③ 口田公民館 | 082-842-7744 |
| ④ 安佐公民館 | 082-835-0111 |
| ⑤ 日浦公民館 | 082-838-3220 |

名人宝人達人

Interview 1

さまざまな分野の達人たちが登録しているまちづくりボランティア人材バンク。
地域活動やまちづくりのお手伝いに、
今日も、あなたのまちを達人たちがおうかがいしています。

日本の伝統文化についての解説 浅尾 哲三さん

何百年もの歴史を持つ日本の伝統文化を 分かりやすく解説し魅力を伝える

今まで25年間、安田女子大学で非常勤講師を務めながら、能・狂言・歌舞伎・文楽・茶の湯・生け花など日本の伝統文化について解説、鑑賞のポイントを伝え続けている浅尾さん。

「東京で学生時代を過ごしていた時、母親の趣味で頻繁に歌舞伎鑑賞に付き合ってました。卒業後、家業を継ぐために広島に戻った際、知人の紹介で安田女子大学の講師を務める事になりました」。生け花を習っていた経験を生かし、実技に加えて所作を含め、数百年に渡って先人たちが伝えてきた文化の歴史や成り立ちなどを学生に解説するようになりました。その領域は、生け花だけでなく、趣味が高じて鑑賞する機会が多くなった歌舞伎、能、狂言など幅広い日本の伝統文化にも広がっていました。

講師としての実績を重ね、やがてカルチャーセンターの講師も務めるように。そして、もっと多くの人にその魅力に触れて楽しんでもらいたいとの思いから、平成19年に人材バンクに登録し講演活動をスタートさせました。これまで安芸区、安佐南区、安佐北区の複数の公民館で、年間数回



▲安田女子大学での講義の様子

程度の講演を続けています。

「講演時間は、1回あたり約90分です。例えば最近は、歌舞伎の一門に焦点をあてた映画が公開され話題を集めたことから、

▲浅尾哲三さん

歌舞伎にまつわる講演が人気です。60分程度話をした後、休憩を挟み、簡単な映像を見て初心者にも分かりやすく解説しています。普段講師を務めている大学では、学生は分からない言葉、知らない言葉が出てくると、直ぐにタブレット等を使って調べています。しかし、公民館での講演では、話を聞きに来る人の知識量が圧倒的に違う。予備知識が豊富な方が講演に来られ、熱心に話を聞いてくれるので、こちらも予め内容を詰めて臨まないと、ニーズが無くなっちゃいます」。講師を務める大学、そして人材バンクの活動でも、聞く人がその講演でいかに興味を持つか、一回一回が真剣勝負と言う浅尾さん。これからも、自身の体調が許す限り、講演活動を続けていきたいと考えているそうです。日常とは掛け離れた独特の世界観を持つ日本の伝統文化の奥深さを、未来へ残していくために奮闘する決意を語ってくれました。



▲三入公民館（安佐北区）での講演の様子（令和7年9月）

あなたらしく、ボランティア活動をはじめてみませんか! 「まちづくりボランティア人材バンク」への登録をお待ちしております。

自分の知識や技術、特技を生かして「ボランティア活動がしたい」、「地域社会の役に立ちたい」…しかし、いざ何かしたいと思っても、どこで、どのように、活動の場を探せばいいのか分からないとお悩みの方はおられませんか。

そんな方におすすめの制度が「まちづくりボランティア人材バンク」です。活動の第一歩は「私はこんなボランティアができます」という情報を公開することです。そうすれば、あなたの力を必要とするグループや団体から、「教えてほしい」「お手伝いしてほしい」というお声がかかるかもしれません。

広島市まちづくり市民交流プラザが、ボランティアを依頼したいグループ・団体とボランティア登録者の仲介を行い、双方の希望に合う活動の場をコーディネートさせていただきます。

ボランティア登録に必要なものは、あなたのやる気だけです。仕事や趣味等で得たあなたの知識や技術を、ぜひ「まちづくり」にお役立てください。

なお、まちづくりボランティア人材バンクは、政治・宗教・営利目的での登録並びに紹介申し込みは受けおりません。また、依頼があれば、紹介をさせていただくシステムです。登録された方に、もれなく活動の場をお約束するものではないことを予めご了承ください。

登録内容の一例をご紹介します。

- 学習・子育て／子育て支援講演会、コミュニケーション能力を高めて人間関係を築く、乳幼児と保護者のふれあい（リトミック・メンタルケア）、小中学生対象キャラ講演
- 社会・歴史／平和についての語り、カーペの歴史語り部、まちの地理や歴史を歩いて深く知る
- 自然・環境／環境にやさしい遊び、自然素材を使ったクラフト、野山の自然を楽しみながら健康を考える、ゴミ分別・リサイクル方法について

Interview 2

フットケア専門家 古山 昌子さん

トラブルがあっても放置しがちな「足」を整えて 赤ちゃんから高齢者まで「元気で豊かな足人生を送る体」を

フットケアの専門家として活動をはじめて29年。夫婦で営む施術院での活動に加え、さまざまな場所で「足」の大切さを伝え広めており、これまで行った講座は200回を超えるそうです。

古山さんがフットケアを始めたきっかけは自身の妊娠・出産。当時の古山さんは会社員時代に履いていたパンプスが原因の外反母趾と内反小趾、巻き爪、さらに若い頃からテニスをしていました影響で爪水虫といった、いわば足トラブルのフルコースを抱えていました。

「その頃は無知だったので、わが子のこんなにかわいい足も、私みたいなトラブルに悩まされるんだろうか、と不安になりました。そもそも外反母趾ってどうしてなるんだろう、とメカニズムが知りたくなり本屋に走りました。そこでフットケアに出会ったんです」と古山さん。一般社団法人ジャパンフットケア協会でノウハウを学び、フットケアセラピストとしての活動をスタートさせ、平成21年に人材バンクへ登録しました。

まだあまり知られていないが、足と脳の関係性は深く、認知機能の維持や向上、さらには足裏の神経終末から送られる信号が脳の成長を助け、集中力や記憶力に良い効果が望まれます。それらを伝えるため、講座では子育てや介護が必要



▲公民館などのフットケア講演会の様子

な足のケアや靴選び、履かせ方、ウォノメ・タコ・外反母趾、巻き爪やかかとの痛みなどのトラブルを改善、予防するための指導を行っています。

子育て講座では0歳～3、4歳を対象に靴選びはもちろん、履かせるタイミング、爪を切るタイミング、高齢者向けには、起こりやすいトラブルの原因や、膝を痛めにくい歩き方なども解説しています。また、足のトラブルはスポーツマンにも多く、「試合前の学生たちを施術することもあります。足をしっかりと使えばパフォーマンスも向上するんです。そのためには足をきちんと整えておくことが大切です」とフットケアの重要性を説きます。

そして「ありがたいことに講座はいつも満席となり、皆さんに喜んでいただいていると感じますが、それだけ足の悩みを抱えている人は多いということ。正しく伝えていくことの責任が重大だと気が引き締まります。また、生まれた時から足育てをしっかりすることで五感を最大限に活用することができ、感情表現も豊かになるんだということを知ってほしい」と古山さん。

ついつい放置してしまいがちな足のトラブルですが、高齢になってしまって自分の足で歩き、豊かな生活を送るためにも、自分の足としっかりと向き合い、整えることが大切だと教えてくれました。

まちづくりボランティア人材バンク発表会

仕事や趣味などで得た知識・技術などを生かし、ボランティアとして、助言・実技指導などをを行う方々が「まちづくりボランティア人材バンク」に数多く登録されています。当プラザでは、市民グループなどからのご要望により、達人たち（登録ボランティア）の紹介・あっせんをしています。毎月第4土曜日は「人材バンク発表会」の日。達人たちの得意なテーマで講座や催しを開催しています。どなたでもご参加いただけますので、どうぞご来館ください。

日時／12月20日（土）、1月24日（土）、2月28日（土）、3月28日（土）

毎月第4土曜日 午後2時～3時半（今年度12月のみ第3土曜日）

※時間は変更になる場合がございます。※テーマはプラザHPやチラシでお知らせします。※無料：要事前申込

ボランティア紹介・登録などのお申込・お問い合わせは…

広島市まちづくり市民交流プラザ ☎(082)545-3911 FAX(082)545-3838



▲古山昌子さん